



二本木遺跡群 (にほんぎいせきぐん)

二本木遺跡群は、JR 熊本駅を取り囲むように広がる遺跡です。この遺跡は、肥後国府推定地として注目されてきました。遺跡の範囲の中に国府に関連すると考えられる地名が集中することや、寺院の塔心礎とみられる大きな石の存在、布目瓦の出土事例などがあったからです。中世段階の国府は二本木遺跡群内にあったということで意見はほぼ一致していますが、二本木遺跡群が最も隆盛した 8 世紀後半から 9 世紀前半にかけての国府の所在地は明らかになっていません。

青磁・白磁の椀・皿

43 点が一ヶ所から出土しました。



須恵器の淨瓶 (すえきのじょうへい)

熊本での出土は非常に珍しいです。

近年、二本木遺跡群で相次いだ発掘調査の成果は、国府所在地について一石を投じるものとなりました。発掘調査では官衙関連とみられる大型の建物跡や希少性の高い輸入陶磁器、文字を墨書した土器、文字を書くための硯、銅製の印、祭祀に使われる道具など、一般の集落ではほとんど出土することのない 8 世紀後半から 9 世紀にかけての物がたくさん出土しました。

中世に至ってもこの状況は変わらず、依然として二本木遺跡群には人や物が集まっていたことが、発掘調査からわかります。二本木遺跡群に国府があった可能性は非常に高くなっています。